

大東学園通信

2024. 7. 8(月)
校長 原 健

教育目標 ～人間の尊厳を大切に～

2024年7月8日 創立記念の集い

大東学園の教育目標「人間の尊厳を大切に」は、大東学園が「人間の尊厳を大切に」教育活動をすすめていくのと同時に、生徒のみなさんも一人一人が「人間の尊厳を大切に」存在として成長・発達していくことを目標としています。

今回は創設者 守屋東先生が大東学園を創立した頃のことをお話しします。

したい 肢体不自由児のための学校 ～クリュッペンハイム東星学園～

1932年（昭和7年）、東は48歳。日本が15年戦争の真っただ中の頃。東は女性、子ども、障がい者であっても分け隔てなく教育が受けられるべきという現代にも通じる近代的な人権意識のもと、世田谷区の上野毛で肢体不自由児のための病院と学校を兼ね備えた「クリュッペンハイム東星学園」設立準備に取り掛かりました。同時に学校看護師や養護教員の養成所も創設しました。こうして日本で初めて肢体不自由児の教育が開始されました。この学校が現在の大東学園のおおもとになりました（どのような学校だったのか、右のコラム参照）

大東高等女学校から大東学園高等学校へ

そして1942年には大東高等女学校を創立しました。アジア太平洋戦争の開戦直後でもあり、英語は敵性語としてほとんどの学校教育の中から排除されている時代でしたが、大東高女では「遠からず英語が必要な世の中がくる」との考えから英語教育が行わ



れていました。「禁断の聖書と英語の本持ちて壕ごうに入れば爆音迫る」「警報下ロウソクともし書き綴る英単語ゆるる PEACE」…当時の生徒の短歌です。

空襲の激化に伴い1944年にクリュッペンハイム東星学園の事業を停止せざるを得なくなりましたが、この大東高等女学校が戦後の学制改革により1948年、大東学園高等学校となりました。

私立学校にとって建学の精神は存在理由であり教育の核心です。創設者守屋東先生の遺志は現在の大東学園にも連綿れんめんと引き継がれています。始めに述べましたように、東の教育づくり・学校づくりの思い、目指した理想の社会づくりの遺志は大東学園の教育目標「人間の尊厳を大切に」の中に生きています。



世田谷区上野毛にある松村医院のホームページから…
当時の守屋東先生とクリュッペンハイム東星学園に併設された大東学園病院の様子が紹介されています。

昭和初期から戦後にかけて、
上野毛に“クリュッペンハイム”という
夢のように綺麗な病院があった。

昭和初期から戦後にかけて、現在の松村医院からほど近い場所に、個性的な病院が存在していました。身体の不自由な子どもたちが学ぶ女学校と病院が併設された“クリュッペンハイム（後の大東学園病院）”。今では跡形もない病院の貴重な資料や写真が、医院建て替えの際にいくつか出てきたのです。興味深く資料に目を通した私は、幼い頃の記憶にかすかに残る“大東学園病院”についてもっと知りたいと思い、当時、輝きを放っていた頃の様子をご存知の佐藤光子さんにお話を伺いました。

松村：昭和7年、上野毛の地に誕生した“クリュッペンハイム、後の大東学園病院”についてお話を伺いたいのですが…。この病院は、守屋 東（もりやあずま）さんという一人の女性によって誕生したそうですね。私も自分が幼稚園のときにお会いした記憶が少しだけあるんですが、守屋さんというのはどんな方だったのですか？

佐藤：守屋 東さんは大変有名な方でね、様々な慈善事業やいわゆる社会浄化運動というようなことをなさった方なの。貧しい人を救い上げて助けるということや、女性の人たちを売春婦にしないというのが大きな目標で、お酒を飲まないとか煙草を吸わないとか、そういう運動を中心になってやっていたので仲間も多かったし、著名人の知り合いも多かったの。私が推測するに、当時、守屋さんの知り合いに上級階級の方が大勢いらしたんでしょう。病気で寝たきりという子が一人いたら、スポンサーとしてお金持ちで社会的地位のある方を一人つけて、その方達からの出資で身体の不自由な子どもたちのための女学校を作ったの。

昭和初期から戦後にかけて、日本の上流階級と言われるお金持ちの夫人たちの間では、高い理想主義を掲げ、ボランティア活動されている守屋さんに憧れる気持ちが強かったんじゃないかしら。とにかく人にお金を出させることが上手だったわね。当初は病院と言わず“クリュッペンハイム”という名前だったのよ。

松村：クリュッペンハイムというのはドイツ語ですよ。

佐藤：その当時、英語は御法度のご時世だったからドイツ語で名前を付けたんでしょう。女学校が誕生して同じ頃に、診察室を設けたんだと思うわ。寝たきりの（小児まひの）子どもたちが入院していたの。

松村：幼い頃のかすかな記憶では、桜並木があって、庭に面して病室があって…という程度の記憶しかないんですが…。

佐藤：それはそれは素敵な景観でしたよ。見学に行ったことがあるんだけど、敷地に入ると桜があって、きれいな芝生のスロープがなだらかに続いていて、夢みたいな空間。一定の時間が来ると、入院してる子どもたちが立派なベッドに横になったまま部屋から庭に出てきて、日光浴をしていたわ。まあ、素敵ね～と感激したのよ。そういうのは守屋さんの夢だったんでしょうね。いわゆるキリスト教の病院で、日曜日に時々、英国人の旦那さんがいらして、礼拝をなさっていたの。当時としては建物も洒落ていたわ。…（以下略）